

「みえの現場・すごいやんかトーク（松阪市）」の概要

11月20日（日）に「まどゐのやかた見庵」で、「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、松阪市で歴史・文化を深める活動やまちづくりに取り組んでおられる9つの団体の関係者10名の方にお集まりいただき、参加者の皆さんが取り組んでいる事業の内容や成果、行政に期待していることなどのお話をお伺いしました。

《参加団体》（敬称略、順不同）

- ・ 蒲生氏郷公顕彰会
- ・ 鈴屋遺蹟保存会
- ・ まっさか参の会
- ・ あいの会「松坂」
- ・ マイアングル
- ・ 松阪ガイドボランティア友の会
- ・ 格子戸の会
- ・ はにわづくりの会
- ・ 伊勢の國・松坂十樂



【参加者の発言】

参加者の皆さんから、以下のような意見をいただきました。

松阪には、蒲生氏郷、本居宣長、三井、松阪肉など、全国的にメジャーなものがある。だから、このような地域の文化を県がどのようにコーディネートしていくか。「三重県」という舞台の中で、県の地域文化をどう全国発信していくか。

さらに、松阪は蒲生がいて、津は藤堂がいる。鳥羽には九鬼がいる。こういう地域の武将を、三重の武将たちということで、横糸を通すことによって、「三重県」という舞台で踊らすことが必要と思う。

子どもに文化をどう伝えていくかということで、子どもが学ぶ機会、場をいかに作るかということが一番大事だと思う。学校が子どもたちにその地域の歴史や文化を学ぶ機会を作り上げることが必要と思う。

松阪で、船形埴輪が出土され埴輪館も建てられたが、あまりメジャーになっていない。教育という観点から、子どもたちに埴輪を目で見せるだけでなく、やはり自分たちで作る体験をすることで、埴輪のルーツとか松阪の歴史・文化が頭の中に入っていく。体験授業というのは、本当に大きな力になっていくのではないかと思っている。

松阪のために、それぞれが一生懸命活動を行っているが、横の連絡がない。何かやろうとしても、個人的にはいろいろな付き合いがあって親しくしているが、行政がリーダーシップを取って、そういうリーダーたちを集めて連合体を作るということが大事だと思う。それと活動できる拠点を積極的に与えてほしい。

三重県自体はものすごく細長いので、各県民局の体質等がある。十把一絡げ的な県政をやってもらおうと、その地域が生きてこないと思う。例えば四日市や志摩でやってきたことが松阪で通用するかと言うと、通用しない場合があると思う。松阪地域を見て、各町内の生の声を聞き、それをまとめるというのが、県民局の役割だと思う。

今は、親子だけで生活することが多くなっていることから、80歳過ぎの方、戦前を知っている方の話を聴く機会がなくなっている。最低限、「昔はこうだった」という、そういう昔の習慣を今に残すための方策を取っておく必要がある。

子育ての文化が伝わっていない。昔は、おばあさんとかおじいさんとかが子育てをしながら、子育ての文化を伝えていたが、今は各世代で分かれているから、子どもを産んでも、子育てを教えてくれる人がいなくなった。



【知事の発言】

知事からは、以下のような発言がありました。

武将の全国発信について、例えば氏郷であれば部下に優しくったとか、藤堂は人を使うのがうまかったなど、そういう人柄みたいなものも合わせながら、パッケージにしてどう全国発信していくかというのはやはり県の役割だと思う。

三重県の良さの一つに多様性があると思っているが、時に、一体感、つながりが欠けてしまう時がある。多様性と一体感の両立ということで、それぞれの素晴らしい多様性を一体にして、みんなで一体感を感じられるよう、お互い褒め合って認め合うような県にしていきたいと思っている。

三重県の皆さんに三重県のことを、地域の人たちに地域のことを好きになってもらえるよう、皆さんと一緒に汗を流し、取り組んでいきたい。